

品 1 容器中の全内容物の質量を精密に量り、これを生理食塩液に溶かし、1 mL につき、約 5 単位を含む液を製し、その 0.10 mL を用いて前記の操作を 5 回行い、凝固時間を測定し、平均値を求める。両対数グラフの横軸に単位を、縦軸に凝固時間をとり、4 種の標準溶液による凝固時間の平均値をグラフ上にとり、検量線を作成する。この検量線を用いて試料溶液の凝固時間の平均値から単位数  $U$  を読みとる。

本品 1 容器中の単位数 =  $U \times 10 \times V$

$V$  : 本品 1 容器中の内容物を溶かした mL 数

別に内容物 1 mg 当たりの単位数を算出する。

#### 貯法

保存条件 10 °C 以下で保存する。

容器 密封容器。

有効期限 製造後 36 箇月。

## 豚脂

Lard

### ADEPS SUILLUS

本品はブタ *Sus scrofa* Linné var. *domesticus* Gray (*Suidae*) の脂肪である。

性状 本品は白色の柔らかいなめらかな塊で、わずかに特異なおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルに溶けやすく、エタノール (95) に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

融点 : 36 ~ 42 °C (第 2 法)

脂肪酸の凝固点 : 36 ~ 42 °C

酸価 2.0 以下。

けん化価 195 ~ 203

ヨウ素価 46 ~ 70

#### 純度試験

(1) 水分及び着色度 本品 5 g を水浴上で加熱して溶かすとき、液は澄明で、水分を分離析出しない。また、この液を 10 mm の層として観察するとき、無色~わずかに黄色である。

(2) アルカリ 本品 2.0 g に水 10 mL を加え、水浴上で加温して溶かし、強く振り混ぜる。冷後、分離した水液にフェノールフタレイン試液 1 滴を加えるとき、液は無色である。

(3) 塩化物 本品 1.5 g にエタノール (95) 30 mL を加え、還流冷却器を付け、10 分間煮沸する。冷後、ろ過し、ろ液 20 mL に硝酸銀のエタノール (95) 溶液 (1 → 50) 5 滴を加えるとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。

比較液 : 0.01 mol/L 塩酸 1.0 mL にエタノール (95) を加えて 20 mL とし、硝酸銀のエタノール (95) 溶液 (1 → 50) 5 滴を加える。

(4) 牛脂 本品 5 g をジエチルエーテル 20 mL に溶かし、脱脂綿でゆるく栓をして 20 °C で 18 時間放置し、析出する結晶をとり、エタノール (95) に浸し、200 倍で鏡検するとき、ひし形板状の結晶が不規則に集まったものを認めても、柱状又は針状の結晶が扇形に集まったものを認めな

い。

#### 貯法

保存条件 30 °C 以下で保存する。

容器 密閉容器。

## ナタネ油

Rape Seed Oil

### OLEUM RAPAE

菜種油

本品はナタネ *Brassica campestris* Linné subsp. *napus* Hooker fil. et Anderson var. *nippo-oleifera* Makino (*Cruciferae*) の種子から得た脂肪油である。

性状 本品は微黄色澄明のやや粘性の油で、においはないか又はわずかににおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルと混和する。

本品はエタノール (95) に溶けにくい。

比重  $d_{20}^{20}$  : 0.906 ~ 0.920

酸価 0.2 以下。

けん化価 169 ~ 195

不けん化物 1.5 % 以下。

ヨウ素価 95 ~ 127

貯法 容器 気密容器。

## ナファゾリン・クロルフェニラミン液

Naphazoline and Chlorpheniramine Solution

本品は定量するとき、硝酸ナファゾリン ( $C_{14}H_{14}N_2 \cdot HNO_3$  : 273.29) 0.045 ~ 0.055 w/v% 及びマレイン酸クロルフェニラミン ( $C_{16}H_{19}ClN_2 \cdot C_4H_4O_4$  : 390.86) 0.09 ~ 0.11 w/v% を含む。

#### 製法

硝酸ナファゾリン	0.5 g
マレイン酸クロルフェニラミン	1 g
クロロブタノール	2 g
グリセリン	50 mL
精製水	適量
全量	1000 mL

以上をとり、溶解混和して製する。

性状 本品は無色澄明の液である。

#### 確認試験

(1) 本品 20 mL に水酸化カリウム溶液 (7 → 10) 2 mL 及びピリジン 5 mL を加え、100 °C で 5 分間加熱するとき、液は赤色を呈する (クロロブタノール)。

(2) 本品 10 mL を共栓試験管にとり、エタノール (95) 10 mL、水酸化ナトリウム試液 2 mL 及び塩化銅 (II) 二水和物のエタノール (95) 溶液 (1 → 10) 1 mL を加え、振り混ぜるとき、液は青色を呈する (グリセリン)。

(3) 本品 20 mL に水酸化ナトリウム試液 5 mL を加え、ジエチルエーテル 10 mL で抽出し、ジエチルエーテル層を分取する。この液 5 mL をとり、溶媒を留去し、残留物をメタノール 5 mL に溶かし、試料溶液とする。別に硝酸ナファゾリン及びマレイン酸クロルフェニラミン標準品 0.01